

(公財) ひょうご環境創造協会
将 来 ビ ジ ョ ン

令和 7 年 3 月
(公財) ひょうご環境創造協会

1 はじめに

「地球温暖化防止のための脱炭素」、「生物多様性の保全をはじめとする自然との共生」、そして「プラスチックごみ等による海洋汚染」などの環境問題が世界規模で大きな課題となっている。

そうした中で、当協会は、平成 21 年 4 月に兵庫県環境研究センターを、平成 22 年 4 月に（財）兵庫県環境クリエイトセンターを統合し、地球規模から地域レベルまで幅広い環境問題に対し、一元的・総合的に取り組む体制を整え、平成 25 年 4 月に公益財団法人へ移行した。

令和 4 年 6 月に、脱炭素社会の実現に向け「ひょうごカーボンニュートラルセンター」を設置した。

県の活動指針となる第 6 次兵庫県環境基本計画が策定されたことを踏まえ、今後の活動の指針となる将来ビジョンを改訂した。

2 協会の使命

環境適合型社会の形成

（公財）ひょうご環境創造協会は、「環境適合型社会」の形成を目指し、(1) 環境に関する県民、事業者の実践活動の促進及び行政との連携・調整、(2) 環境に関する調査・研究・分析・測定、(3) 廃棄物等の適正で広域的・効率的な処理により、環境の保全と創造に資することを使命とする。



3 協会の特徴

(1) 環境問題に一元的・総合的に取り組む団体

地球温暖化防止や生物多様性の保全、循環型社会の構築、環境に関する調査・研究・測定・分析、環境保全・創造活動の普及啓発など、地球規模から地域レベルまで幅広い環境問題に一元的・総合的に取り組む。

(2) 県民、NPO、事業者、行政をつなぐ中間支援組織

環境保全・創造活動の展開には、県民、NPO、事業者、行政など、それぞれの組織特性を踏まえた連携、協力が不可欠であり、多様なネットワークで異なるセクターをつなぐ中間支援組織としての役割を担う。

(3) 多様化する社会ニーズに対応する公益法人

個人の価値観が多様化し、多岐にわたる社会ニーズに対応するため、民間非営利部門である公益法人として、柔軟かつ機動的な活動を展開する。

4 各事業の目標

(1) 環境創造事業

目
標

県民・NPO・事業者等の信頼を基に、環境分野の中間支援組織として、環境保全・創造活動を促進する。

〔今後の方向性〕

- ① 第6次兵庫県環境基本計画に掲げる「カーボンニュートラルの実現」、「自然再興の実現」に向け、イコールパートナーシップに基づく共創力により普及啓発や環境学習・教育の推進を図る。
- ② 県民、NPO、事業者、行政のネットワークの構築を推進し、環境に関する実践活動の促進を図る。
- ③ 県、NPO、事業者等との役割分担、費用対効果等の観点から事業の見直しを行い、各事業の優先度を見極め、選択と集中を徹底する。

(2) 循環型社会推進事業

目
標

廃棄物等の適正で広域的・効率的な減量、再生、処分など循環型社会の構築を目指す。

〔今後の方向性〕

- ① 第6次兵庫県環境基本計画に掲げる「循環経済の実現」に向け、焼却灰等の最終処分量削減、再生利用率を向上させるため、セメントリサイクル事業を着実に実施する。
- ② 兵庫県内廃棄物の広域処理機能を担うとともに、市町等が行う一般廃棄物処理事業において、効率的なエネルギー回収や資源循環、災害廃棄物処理を支援するため、講習会、研修会などの充実を図る。
- ③ 再生可能エネルギーの創出に貢献するため、大規模太陽光発電事業を行う。
- ④ プラスチックの資源循環に向けた普及啓発や環境学習の促進を図るとともに、「ひょうご豊かな海づくり県民会議」への参画を通じ、海ごみやプラスチック廃棄物削減等の普及啓発に取り組む。

(3) 環境調査・測定分析事業

目
標

技術の高度化、精度管理の徹底による迅速・正確な環境調査・測定分析の実施を通して、地域環境を保全する。

〔今後の方向性〕

- ① サンプルング・分析・成績書発行の一連の業務の効率化を図るとともに、精度管理を徹底し、迅速・正確な対応により、協会への信頼と顧客満足度の向上を図る。
- ② 職員の企画能力、調査・分析技術の向上など、計画的な人材育成を行い、環境調査・コンサルティング事業を拡充・強化する。
- ③ 土壌汚染調査やアスベスト・PM2.5等の分析など協会の強みを活かした受注促

進や外来生物の侵入状況を把握できる環境 DNA 分析など新たな測定分析技術を用いた事業の展開を図る。

- ④ 兵庫県環境研究センターとの一体的運用により、調査・分析技術の向上を図るとともに、業務の効率化、受託の拡大を図る。

(4) 環境研究事業（兵庫県環境研究センター事業）

目
標

環境危機管理・対応能力等を最大限に活かし、多様化する環境事案に的確に対応するとともに、高度な環境研究を推進する。

〔今後の方向性〕

- ① 瀬戸内海における栄養塩類の適切な管理、PFOS や PFOA などの残留性有機汚染物質による環境汚染、PM2.5 による大気汚染など兵庫県が抱える環境問題について調査研究を行い、県行政に科学的知見を提供する。
- ② 国、他府県の研究機関、大学等との連携を強化し、効果的に調査研究を推進するとともに、国等の外部資金の積極的な獲得を図る。
- ③ 蓄積された技術や情報を活用し、国の精度管理プログラムに積極的に参画するとともに、計量証明部会等と連携し民間分析機関の精度管理を支援する。

(5) 国際協力事業

目
標

環境保全の取組みを支援する。

〔今後の方向性〕

- これまで培ってきた知見、経験、技術を活かし、持続可能な開発に向け、技術協力が必要な国の環境保全の取組みに協力する。